

1 単元名 気持ちを思えがく、読む『お手紙』（2年）

2 単元について

単元	○がまくんとかえるくんのやりとりを根拠にして、2人の気持ちを読み取る。
目標	○叙述には表れていない、登場人物の気持ちを考える。

2年生が物語文を読むと、登場人物に感情移入することが多い。これまでに国語の授業で物語文を読んできたが、初発・読後ともに、登場人物について思ったことや考えたことを書いた感想が多かった。また、登場人物に「なりきって」読もうとする姿も見られた。低・中・高それぞれに読み方があるが、登場人物により近づこうとするのは低学年の特徴だと言える。

『お手紙』は、がまくんとかえるくんのやりとりを描いた物語である。会話を中心に話が進んでいき、がまくんとかえるくんの気持ちを様々に想像することができる。子どもたちは、がまくんの寂しさに思いを寄せるかもしれないし、かえるくんの友情に感動するかもしれない。何れにせよ、2人のやりとりには心温まるものがあり、ぜひ子どもたちにも登場人物の気持ちに寄り添って読んでほしいと思う。

本単元では、登場人物の気持ちを読み取ることを軸としながら、題名にもなっている「手紙」について考えていきたい。数ある伝達手段の中から、かえるくんはなぜ「手紙」で思いを伝えようとしたのか、また、「手紙」を「待っている」時間のそれぞれの思いを考えることで読みを深めていきたい。

登場人物に寄り添って読んでいくために、叙述には表れていないセリフを考えていく。行間には、2人のどんな思いがあり、どんな言葉を交わしているのか。想像を広げながら、『お手紙』の世界を読んでいくことで、子どもたちのことばが広がっていくことを期待している。

3 学習指導計画（6時間目／全9時間）

（事前）手紙を書いた・受け取った時の気持ちを思い出し、全体で共有する。

- （1）『お手紙』を通読し、初発の感想を書く。（1時間）
- （2）『お手紙』の扉ページを作る。（1時間）
- （3）がまくんがお手紙を待っている場面を読む。（1時間）
- （4）かえるくんがお手紙を書いて、かたつむりくんに渡す場面を読む。（1時間）
- （5）がまくんとかえるくんが、お手紙を待っている場面を読む。（1時間）
- （6）かえるくんが手紙を書いている時の気持ち、手紙を待っている時の2人の気持ちを考える。（1時間）
- （7）手紙を待っている時の2人の気持ちを学級全体で考える。（本時1時間）
- （8）学習のまとめを書き、共有する。（2時間）

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

手紙を待つがまくんとかえるくんの気持ちを考える。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時に書いた、手紙を待っている時の2人の気持ちを確認する。	○自分が考えた2人の会話を確認する。
2 手紙を待っている間、がまくんとかえるくんがどんなことを思っていたかを考える。	○考えてきた2人の会話を学級全体で共有する。
3 本時の学習感想をノートに書く。	○学習感想の観点を示す。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・がまくんとかえるくんの会話を想像することが、物語全体を深く読むことにつながったか。